

命のアサガオに 奇跡が起きました

現在、全学年に「命の授業」を行っている、横浜市立永田台小学校での出来事です。

先日、4年生の授業を行うため、学校に出向くと、ご担当の先生から、「大変なことが起きました」と真顔でお話がありました。「何が起こったのですか？」と聞くと、

「実は、昨日の昼の2時半に、4年生のークラス30人の子供たちが、命のアサガオの種を牛乳パックで作った鉢に巻きました。今朝来て、8時に様子を見ると、なんと発芽どころではなく、大きな葉が成長しているではありませんか。これほど、驚いたことはございません。」と、お話をされました。さすがの私も、自分の目で見たいと思い、先生に現物を見せて頂きました。それが、以下の写真に写っているアサガオの姿です。

30人の内、15人が葉っぱ（N○1～N○4）まで成長し、残りの15人は、N○5の写真にある様に発芽をした状態となっております。



No 1



No 2



N O 3



N o 4



No 5

15 人の生徒が発芽の状態でした。

このようなことが起きるのでしょうか？

私は、何故このようなことが起きたかを理解するために、先生に昨日の様子をお聞きしました。

すると、先生は、

「通常は一週間ぐらい発芽するまでに期間が必要となるため、今から種をまいたのでは夏休みに入ってしまう、十分に面倒を見ることができないので、子供たちにどうするか問いかけたところ、“いや、蒔きます”と言って30人の子供たちが種を蒔きました。子供たちは、必ずすぐにでも発芽し、成長することを信じるかのように、笑顔で水を与えました。その姿がとても印象的でした。」

と、お話をされました。

この出来事が奇跡としても、その理由が理解できました。子供たちが、自分自身を信じ、そして、恐らく、光祐君を信じ、夏休みに入るまでに、必ず葉っぱまで成長するという姿を思い描き、この常識を寄せ付けない純粋な、子供たちみんなの強い思いが、「命のアサガオ」の種に働きかけ、「命のアサガオ」の種がこの思いを聞き届けてくれたということ。そして、この出来事が起きたということ。

気持ちの純真さと、思いの強さと、そして、常識を超えたところの、信じる力が起こした出来事として、私の一生の宝となりました。